

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立静岡聾学校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡聴覚特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部

1. 使用状況

寄贈物品名	ロジャータッチスクリーンマイク
使用学年及び人数	小学部 3, 4年 7名
使用頻度	毎日(年間200日)
使用状況	<p>本校の児童は聴覚に障害を持っています。したがって学校ではどの子どもも、教師の声のほかクラスメイトの声や教室内のマルチメディア機器の音が聞こえる環境を整えなければ授業ができません。</p> <p>ロジャータッチスクリーンマイクは、教師が首に掛けたり、テーブルの上に置いて児童のグループのこたばを拾ったりする簡単で直感的なマイクロホンなので、毎日の授業で、複数のグループに分かれて学習を行うシーンで、話者の音声や動画教材等の聞き取りを支援するために使用しています。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>本校の児童は補聴器や人工内耳を装着していますが、それらによって聞こえにくさは完全に補えるわけではありません。聞こえの状態は一人一人異なり、にぎやかな場所や大勢の人が同時に話しているような場所では聞きづらかったりします。</p> <p>ロジャータッチスクリーンマイクは、自動認識機能で自分の周囲の話者の声だけを選択して補聴器等に直接ストリーミングするので、児童各自の聞き取りが向上し、コミュニケーションがより円滑になり、どの子どもも授業に十分に参加することができます。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>昨年度、御寄贈いただいたおかげで、タッチスクリーンマイクの保有台数が増え、活用の幅が広がりました。それまでは、学年全体の授業でしか使えませんでした。今年度は児童の居住地にある学校との交流及び共同学習が複数校で重なった際にも交流先へ持って行って使用することができました。</p> <p>今後、このような児童個別の交流活動がより推進される見通しであり、様々な場面や目的に応じた教育環境の整備が求められるため、さらなる台数の確保が課題となります。</p>
その他希望や所感など	<p>聴覚を支援する機器や技術は日々改良を重ね急速に発展しています。現在の聴覚特別支援学校は、手話を中心としたコミュニケーション手段だけに頼らず、保有する聴力を十分に活用した言語教育を行います。聴覚に障害を持つ子ども達が将来、聴覚を使って生きるという生き方の選択ができるように、学校は多様な教育に対応した環境整備を進める必要があります。常に新しい技術の利用が学校で体験できることで、子どもたちの未来の可能性が広がります。</p>

2. 活用の様子

